



TITLE:

「物性研究」 評判記

AUTHOR(S):

CITATION:

「物性研究」 評判記. 物性研究 1963, 1(2): 176-176

ISSUE DATE:

1963-11-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85495>

RIGHT:

資 料

ならべてみよう。しゃべった人の言葉が十分正確には再現されていないかも知れぬが、その点は御容赦のほど。順不同，文責筆者である。

「編集者に頼まれて、いろいろな人に投稿するようにあたってみたが、何か書くという人はいなかった。まあ早く言えば、こういう雑誌の必要性は今のところない、という事かも知れないね。」

「この表紙はいいですよ。今まで出たこの種の雑誌のなかでは一番いいんじゃないですか？」—— まわりにいた数人の人から特に賛同の声は上らず。

「この雑誌は「物性論研究」と「物性研だより」が半分半分という感じがすね。そのうちにバランスがくずれてどちらか一方になるのではないですか。果してどちらになるでしょうね。」

「こういう一冊の雑誌で広い物性の全分野をおさるのは無理ですよ。例えば基礎物性というような特色を出していくべきだと思いますね。」

「この雑誌をつづけていくためには、最初から Board of Editors に実験の人もいれて、実験の人の協力も得るようにした方がよいのではないのでしょうか。」

「20世紀前半の物性物理に固執するために雑誌を出のなら止めた方がよい。雑誌を20世紀後半の物性物理のための牙域とせよ！」

「研究会報告もこの「相転移」の報告のようなものなら役に立たない。

誰が何をしたということが列挙されているだけで、一体研究会として何を目指し、どのような成果が得られ、これからどうしようとしているかが、明かにされていないではないですか。」……………

資 料

総合研究機構についての提案

物理学研究連絡委員会は、原子核特別委員会と共同して、昨年以來総合研